地域のホタルを子どもや孫に残すために…

地域が一丸となって結成「薬師堂ホタルの里を守る会」

地域に生息するホタルを守り育て、子や孫たちの世代まで引き継いでいこうと設立されたのが「薬師堂ホタルの里を守る会」です。

ホタルの里を守る会は、今年の５月、尾篦地区の自治会をはじめ、青年部や女性部、老人会などの各団体も全面的に協力し、地域の総意で設立されました。

紙上座談会
～守る会のメンバーの熱い思いをお聞きしました～

9月9日の夜、「薬師堂ホタルの里を守る会」の役員の皆さんに、かんぽの宿白石に集まっていただき、守る会結成のきっかけや活動状況、これからの夢などを座談会形式で語っていただきました。座談会でのお話の一部を紹介します。

座談会に参加していただいた皆さん

「薬師堂ホタルの里を守る会」

顧　問	半沢　国男さん	（尾篦自治会長）
会　長	半沢勇三郎さん	（農業集落排水事業組合長）
副会長	永山　　晋さん	（青年部「薬師一歩会」会長）
〃	村上　健一さん	（老人会「尾篦長寿会」会長）
〃	田切　良子さん	（女性部「秋桜会」会長）
〃	永山　きみさん	（尾篦菅生田子ども会地区委員長）
〃	佐藤八恵子さん	（ボランティアグループ「サロン・サンサン」代表）
事務局長	佐藤　勝治さん	（尾篦自治会副会長）
運営委員	鈴木三喜雄さん	（かんぽの宿白石支配人）
〃	後藤与志博さん	（かんぽの宿白石副支配人）
〃	阿部　正子さん	（かんぽの宿白石主任）

○始めに、尾篦地区のホタルについて教えてください。昔はどうだったんですか？

「昔はたくさんホタルがいて、前の白石川にまでいたんです。タニシやどじょうなどもたくさんいたんだけれど、農薬を使うようになってから、どれもいなくなったんだよね。」

「一番いなくなった原因は、農薬の航空散布だね。虫を殺すためだったから、ホタルの幼虫にも、蛙にも、全部に効くような農薬だったからね。」

復活には、農薬の空中散布中止と農業集落排水の供用開始が関係

○いなくなったホタルが、2。3年前から、また見られるようになったとのことですが？

「空中散布もしなくなって、このごろは、ホタルの幼虫や蛙には効かないような薬も出てきたために、ホタルが自然に発生してきたということですかね。」

●尾篦（おべら）地区の紹介

尾篦地区は、白石川の北岸沿い、刈田綜合病院や福祉の里のある丘陵地帯のふもとに位置し、世帯数は約80世帯、人口は約２５０人の地区です。

豊かな緑、豊富できれいな水と、自然環境に恵まれた地区で、地元の方たちから、地域のシンボルとして親しまれている薬師寺（堂）や、「おがる石（諏訪神社）」をはじめ、宿泊施設「かんぽの宿白石」やお年寄りたちの憩いの施設、「市老人福祉センター」などが所在しています。

地区内菅生田にある「おがる石」▶
おがる石のすぐわきの小川でホタルが飛び交います

◀地域のシンボル「薬師寺（堂）」
地元の方たちから「お薬師さん」の愛称で親しまれています。

「農業集落排水」供用開始の翌年に見た、数千匹のホタル

「薬師堂地区の農業集落排水が供用開始した次の年、平成13年ですね。この年がものすごいホタルの年でした。竹やぶの中がホタルでいっぱいで、ホタルの光で下のものが見えるくらいの明るさでした。家内と二人で見に行ってびっくりしたんです。数千匹のホタルだったね、あのホタルは。本当にすごかったですよ。」

「農集排が始まる前は、風呂水や洗濯水、生活用水は全部堀に流してたからね。」

「生活雑排水だけ流れている堀というのは、ものすごいにおいでした。それが流れなくなって、水がきれいになりましたよね。」

「やっぱり生活雑排水が堀に流れないっていうのが、（ホタルが戻った理由で）一番大きいのではないですか。」

「水洗化になって、清潔で快適になりましたよね。うちの娘も喜びましたよ。」

○「こっちの水は甘いぞ」というホタルの歌がありますが、ホタルは「甘い水＝きれいな水」を好むんですかね？

「そうですね。そして、水がきれいだということは、水に毒物が入っていないということだろうと思うんです。幼虫もえさのカワニナも、ドロドロとした土の中にいるんですけれど、農薬類や塩素だとか、リン、洗剤とか、そういうものが、水や土の中に入っていると、幼虫もカワニナもやられてしまいます。きれいな水とは、『自然な水』だと思うんです。自然のままがいいんですね。」

「自然のままが一番で、あんまり環境をいじってしまってはだめなんですよね。」

農村地域の生活環境を快適に【農業集落排水事業】

農業集落排水事業は、農村地域のトイレ、台所、風呂場などの生活排水を集め、きれいに処理して水路や川に戻し、水環境や農作物の生産条件の改善を図る事業です。

白石市では、平成9年に斎川地区、続いて平成12年に薬師堂地区が供用開始し、現在、平成19年度の供用開始を目指して越河地区で整備を進めています。

▲地区内の生活排水を集めて処理している「薬師堂クリーンセンター」

○「守る会」を結成するきっかけは、何だったんですか？

「ホタルが再び姿を見せるようになって、地区で保護活動に取り組もうと、いま事務局長の佐藤さんと、かんぽの前の総支配人さんが自治会に働きかけたんです。そして、役員会での検討を経て、今年3月の自治会総会で、自治会・全組織を挙げて、協力しましょうということになったんです。それから組織作りが始まりました。」

「かんぽの宿では、去年の夏、お客様を何回かお連れして、ホタルを見せてあげたんです。その時に、お客さんが大変感激して帰られたんです。それで、去年だけで終わらせるのはもったいないと、地域の人と一体となって、できるものはないかと考えて、それには、地域の方々と一緒に土地を守り、水を守っていくことかな、というのが、そもそもの始まりだったと思います。」

「ホタルは、10年以上前から、空中散布の農薬がかからなかったところに、少しずつは、飛んでいたんです。『今、ホタル飛んでいるよ！だから、水をきれいにしましょうね』と、昔から皆さんに話していたんです。かんぽの皆さんの非常に強い働きかけもあって、これはいいこと、楽しいことだから、なんとか進めていこうということだったんです。」

白石市では平成8年を最後に中止【農薬の空中散布】

かつて、より効果的な薬剤散布の手段として、市と農協、農業共済組合が費用を出し合い、小原地区を除く、市内全域のほ場整備した水田を中心に、ヘリコプターによる農薬の空中散布が、年間4、5回実施されていました。

しかし、農薬の空中散布が、地域住民の健康や周辺の環境に悪影響を及ぼすことや、消費者が安全な農作物を求めるようになったことなどから、白石市では、平成8年を最後に農薬の空中散布をやめています。

また、最近は、より低農薬で安心・安全な農作物の生産を図るため、各農家では、農薬の量や回数を減らすなどの努力もしています。